

令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：函館地区
- 2 事例報告学校名：函館市立日吉が丘小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 小笠原 学
- 4 キーワード：児童一人一人の学びを保障するために（学力向上、地域との連携）

1 はじめに

本校は、函館市の東部への人口の移動に伴い、昭和39年に創立され、今年で58年目を迎える歴史と伝統のある学校である。通常の学級、特別支援学級に加えて、通級指導教室（言語通級指導教室）も配置されており、教職員の複数の視点から児童の支援について検討、実施することができる。

このような中、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度、令和3年度は、従来の学校の教育活動の縮小、変更等を行っている。

学校の教育活動の縮小、変更等を行う際、児童一人一人の学びを保障するために「これだけは行わなければならないこと」を教職員一同が意識して、教育活動の内容の精査等を行い、取り組んでいる。

本年度、本校が取り組んでいる実践について報告したい。

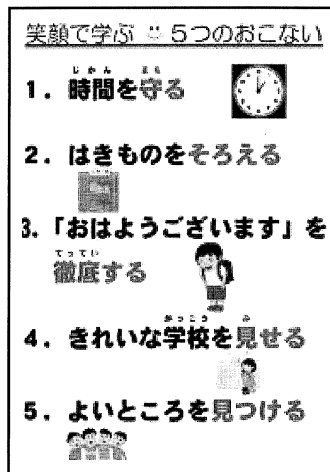
2 教員・保護者・地域住民の目指す大人像を明確にしたグランドデザイン

児童一人一人の学びを保障するために、「渡島管内教育の充実に向けた『スローガン』と『5つの行動指標（そろえる、見付ける、徹底する、守る、見せる）』」を踏まえ、特に令和3年度は「そろえる」「徹底する」「見せる」を重点とした教育活動の充実に努めている。

(1) そろえる（カリキュラム・マネジメントの定着）

① 学習、生活ルールの一

6年間を見通して、全校で統一した授業のルール（笑顔で学ぶ授業づくり）、生活のルール（笑顔で学ぶ5つのおこない）を設定し、各教室に掲示すること等を通して、日常的に児童への意識付けと定着を目指している。児童の進級等による学級担任の交代があっても授業、生活の統一したルールは児童の学校生活の基盤となっており、教職員間の統一した指導を生み出している。



(2) 徹底する（「主体的・対話的で深い学び」の実現）

① 校内体制の工夫

全国学力・学習状況調査を始め、各種調査で明らかになった本校の算数科における課題に対応するため、北海道教育委員会の指導方法工夫改善加配や校内体制の整備により、全学年の算数科の授業においてティーム・ティーチングを行っている。

また、北海道教育委員会の学習指導員の配置を生かし、特に、算数科の学習状況に応じて、別室での個別指導を実施している。

さらに、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室（言語通級指導教室）が配置されている利点を生かして、ソーシャル・スキル・トレーニングを始め、人間関係やコミュニケーションに関わる「技術」「技能」を学ぶ機会を設定するなど、日常の教育活動の充実に努めている。

② 授業改善に向けて

北海道教育委員会の事業である「授業改善推進チーム活用事業」の連携校として、定期的に指導教員を迎え、国語科、算数科の授業改善に努めている。

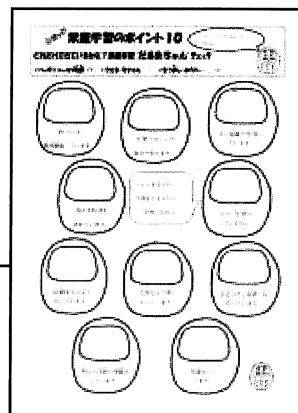
本校は、校内研究の研究内容の一つとして、問題解決的な学習の展開の在り方など、『めあて、よそう、たしかめ、まとめ』の学習展開を意識した日常の授業改善を位置付けている。「授業改善推進チーム活用事業」を研究内容と関連付け、指導教員による授業観察、ティーム・ティーチング等を通して、問題解決的な学習、探究的な学習の展開の在り方について研修を深めている。

③ 家庭学習の充実

毎月、家庭学習の手引や計画表を配付し、児童が自ら学ぶ習慣を身に付けることができるよう、継続的に取り組んでいる。

家庭学習の手引は、発達の段階を考慮し、学年毎に国語科や算数科の学習方法等について解説をしている。また、家庭学習の習慣化に児童と保護者が一緒に取り組むことができるように、「家庭学習のポイント10 だるまちゃんチェック」として次のポイントを示している。

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 机の上は整理整頓している。 | ② 学習することは自分で決める。 |
| ③ よい姿勢で学習する。 | ④ 始める時刻を決めている。 |
| ⑤ ながら学習はしない。 | ⑥ 宿題に取り組む。 |
| ⑦ 文字などを丁寧に書く。 | ⑧ 丸付けと見直しをする。 |
| ⑨ 読書をする。 | ⑩ 明日の学習の準備をする。 |



10のポイントについて家庭での学習で成果が見られた際には、児童と保護者が一緒にだるまに両目を記入するなど、児童と保護者が学びの成果を共有できるようにしている。

(3) 見せる（家庭や地域社会との相互連携）

① 集団下校訓練の実施

コロナ禍における最低限必要な取組として、緊急事態等の発生に備え、避難訓練や集団下校訓練などを年間計画に基づき、行っている。その中で、集団下校訓練では、下校コースごとに、集団下校をしたり、お迎えが可能な保護者への引き渡しをしたりするなど、新年度早い時期（4月末）に実施をしている。訓練当日は、本校教職員だけではなく、地域の町内会の方々に下校コース毎に同行していただくなど、見守り活動とも関連付けて、地域全体で児童の安全を確保する体制の確立に努めている。

3 おわりに

本校では、新型コロナウイルス感染症対策が求められる前は、音楽活動が盛んで、特色の一つとなっていた。本校児童によって構成する金管バンド、合唱団、地域住民を中心に構成する社会学級合唱団など、音楽を柱に、学校と地域が一体となって、世代を超えて、活動を進めてきた。特に、全ての関係団体が参加して、年に一度、地域に広く公開してきた「ふれあいコンサート」は、運動会、学習発表会に並ぶ、本校の学校行事の核になるものであった。しかし、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各関係団体は活動を休止したり、縮小した活動をしている状況にある。

これまでの特色の一つであった音楽活動を十分に行うことができない状況にあるが、本校としては現状を教育活動を再度見直す貴重な機会と捉え、教職員一同、児童一人一人の学びを保障する教育活動の充実に努めているところである。

今後も、教育活動の質の向上を目指したこの姿勢は継続していきたいと考えている。